

福永選手の母校、七里小学校で パブリックビューイング開催！

勝利の後、福永選手から母へのビデオメッセージも

1 試合後、勝利の喜びを分かち合う地元・松葉川の皆さん 2 松葉川青年団の力により、パブリックビューイングが実現 3 福永選手の試合に熱い視線を送る皆さん



母へのビデオメッセージ



「おかあ、まずはじめに、いつもありがとう。結構、頻繁に連絡も取りゆうし、こうやってあらためてメッセージを送るのはなんかちょっと恥ずかしいけど・・・些細な心づかい、「体調大丈夫？」とか「調子どう？」とかそういうちょっとしたLINEとかにすごくいつも心を救われています。今回は2日前から隔離やったきなかったけど、いつも家に泊まりに来て助けてくれたり、やっぱり昔から「お母さんはどんなことがあっても宇宙の味方やき」って言ってきて、それはホンマにいつもやけど自分がしんどくなったときに特に実感しています。母の偉大さ、優しさ、ありがたさは本当に痛感しています。これから仲の良い親子でいたいんで、僕ももっともっと自慢の息子になっていくんで、これからよろしく。わざわざ僕のために時間を割いて集まってくれたみなさん、今日はありがとうございます。これからもっともっとピックになっていくんで、ぜひこれからも応援よろしくお願いします。」



20歳から歩み始めた プロボクシングの道

判定勝ち で四国初の

全日本新人王の座を掴む

東 京・後楽園ホールで行われたプロボクシング第67回全日本新人王決定戦。スーパーバンタム級の西軍代表として挑んだ四万十町出身の福永宇宙(23・黒潮)が東軍代表の矢斬佑季(29・花形)に3-0で判定勝ちを収め、見事に四国のジム所属選手で初となる全日本新人王を獲得しました。西軍代表決定戦で最優秀選手(MVP)に選ばれ、大きな期待を背負って挑んだ今回の一戦。試合後、福永は、「とりあえずホッとしています。地元の人、四国の人が自分のことのように応援してくれていたのが、その期待に答えられたのが一番ホッとしています。」と話し、「これからがスタート。地方やからとナメられないように、もっともっと頑張っていきたい」と力強く宣言しました。四万十町、そして高知に勇気と元気を与えてくれた今回の勝利。今後のさらなる飛躍に期待です。



ふくなが そら
福永 宇宙 (23)

四万十町松葉川出身。
小学校ではソフトボール、中学では野球、高校では柔道を経験し、ボクシングは20歳から始めた。

福永(写真右)は序盤から積極的に攻め、花形ジム初の全日本新人王を目指した矢斬(写真左)とのハイレベルな攻防を、49-46、49-46、50-45の大差判定で制した。